

第1回ゆりはま創生総合戦略会議 議事録

日 時 平成27年5月27日(水) 13時00分～14時20分
場 所 湯梨浜町役場 2階第1・2会議室
出席者 中島 守、山脇 賢治、坂田 康則、宮脇 正道、山田 修平、遠藤 公章、
尾崎 泰弘、若山 敬之、銭谷 均、加藤 一、伊藤 鈴江、佐伯 健二、
森田 宏樹、杉本 貴美子、(欠席者：井土美智子)
事務局 仙賀芳友副町長、中本賢二課長、岩崎正一郎参事、船木宣孝副主幹、
鳥取県中部総合事務所地域振興局参事 中本修(コンシェルジュ)

1. 開会

これより、第1回ゆりはま創生総合戦略会議を開催いたします。
まずはじめに、宮脇町長のほうからあいさつをお願いします。

2. 町長あいさつ

皆様、本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。

現在国をあげて地方創生に取り組んでいるところでありますが、その趣旨はもともと日本の人口が大変減ってきているということがございます。

昭和24年のいわゆる団塊の世代のときに生まれたという皆さんの数が、269万人いたものが昭和48年に209万人、さらに平成26年は103万人ということで、昭和24年と比べますと100万人以上に数が減ってきていると、このように急激に子どもさんの数がどんどん減ってきているということがございます。

そうすると結局、社会保障を支える仕組みあるいは生産年齢人口の減少に伴います日本の今の産業構造の維持も困難になってくると、というようなことからこれを何とか克服して日本を継続して発展できる国にしたいというのがその想いだと思います。

それで現状をみますと、実は合計特殊出生率ということが皆さんご承知だと思いますが、女性に生涯生まれる子どもさんの数の平均なんですが、これが都市部は極めて低いと、とりわけ東京都は全国で一番低くって1.13とか1.1とかそういう数字です。ちなみにこれを湯梨浜町に当てはめてみますと、あとで説明があると思いますが、ここ3年間1.89、平成25年が2.06というようなことでそれだけ差があるわけです。ということになればようするに、その若い女性がどんどん東京に行く構造の中には子どもを生まれない状態のところへ皆さん行かれるというようなことで、そういうことじゃなしに、やっぱり地方を強くして地方に人あるいは物、金その観点から地方を強くして再生することによって、その人口構造を人口をまた維持する体制をつくらうというようなことで思っております。

今日は初めての会ということで皆様に大変ご無理をお願いいたしまして、お引受けいただいたと思っております。これから5年間のどういうことで目的を達成するか湯梨浜バージョンを考えていかなければならないわけですが、これまでいろんな場で今年はそういうこ

とやりますんで皆さんの意見をよろしくと、いうことを申し上げてきました。

先週は、町内の3か所で町長との意見交換会というものを地方創生を議題に入れて概要説明して町民の皆さんの参画、あるいは、ご意見を取り入れる際、やる気とかそういったものが大切な要素になってくると。行政だけがやっているのではとても地方創生にならない。根付いたものをつくるのがやっぱり、町民の皆さんの参加と協力といいますか、そういった主体的取組を行政が支援するというような内容が是非とも必要だというようなことで、意見を交わしていたところでございます。

今日は、初会合ということで、本来ならきちんと今のところこういうで考えてますということをお示し出来れば良かったんですが、なかなかそうもいきません。昨年の11月頃に庁内でワーキンググループ作りまして、それで今年の正月明け1月2日と3日に課長等からなる会をつくりまして、色々内容を検討しまして、国の平成26年度の補正予算に合わせていくつかの施策は地方創生先行分ということで国の交付金を使って取り組んでいるところでございます。これもまた後で説明させていただくと思いますが、そのようなことでやってきているところでございますが、まだまだ今の素案といいますか、とりあえず担当が作ったようなものでしかございませんでして、欠けている視点とか、施策とかそういったものは沢山あるかと思っております。

是非ともみなさんと力合せてこれからも色々な場面で町内の各団体ですとか、あるいは集落の方いろんな人と議論を交わしながら進めて、この委員会に持ち上げてご検討いただければと思っておりますので、何卒よろしくお願いいたします。本日はありがとうございます。

3. 委員紹介

そうしますと、3番目の委員紹介にうつりたいと思いますが、今回この委員につきましては、ゆりたま創生総合戦略会議設置要綱第3条第2項によりましてそれぞれ委嘱をさせていただいております。内容のほうといたしましては、産業界の関係者、学識経験のある者、町の職員、金融機関の関係者、労働団体の関係者、報道関係の者、町長が必要と認める者この項目について計15名の方がこの委員になっておられます。

それぞれ名簿につきましてはレジュメの次のページに掲載しておりますので、ご覧いただいて、それぞれ自己紹介をお願いしたいと思います。

【各委員、事務局自己紹介】

ありがとうございます。要綱の第4条によりまして、委員の任期は2年とする。退任は妨げないとなっておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

4. 会長、副会長の選出

そうしますと次に会長、副会長の選出をいたします。

要綱第5条第2項によりまして、会長及び副会長は、委員の互選によるというふうになっております。皆さんのほうでご意見等ございましたら発言をお願いしたいと思います。

事務局一任でよろしいでしょうか。(異議なし)

ありがとうございます。事務局のほうから会長、副会長の発表をさせていただきます。

(事務局)

失礼します。事務局案といたしまして、

会 長 山田 修平（鳥取看護大学・鳥取短期大学理事長）

副会長 伊藤 鈴江（労働団体の代表）

というご提案でございます。

(事務局)

皆さんこれについていかがでしょうか。（異議なし）

ありがとうございます。

それでは山田会長、伊藤副会長前の席へ移動をお願いします。

そうしますと、設置要綱第6条第1項によりまして、これからは会長が議長となっております。なおその前に会長のほうから一言あいさつをいただければと思います。

(会長)

山田でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

この湯梨浜町に33年前くらいにきました。20年経ったときに運動公園に桜の記念樹を植えて大好きな湯梨浜にこさしていただいてありがとうございますというようなメッセージで桜の木を植えて、春になると見に行ってますけども、随分立派になったなと思って、ほんとに湯梨浜のいいところと思っているんですけども、33年前に来たときには子供で溢れかえっていたんですけども、自分の子供も含めて、ふと気が付くと松崎1区の11班にいるんですけども、子どもがほとんど居なくなって、空き家が多くなってというのが一方でこれが現実だと、そういう中でもう一遍湯梨浜をほんとのいきいきとした、安らぎがあって生き生きしている、そういう地域になればいいなと思って、是非皆さんからいろんな角度からご意見伺わさせていただければと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

(副会長)

なんか、場違いな所に立たせてもらってしまって、私たちも三八市のほうでも移住定住のほうに力を入れてますし、私たちの近くにも10数人のIターンの方が入って来られました。それで子どもさんもできたり徐々に賑やかになってますし、私たちの考えも若い方たちの考え方も色々違いますし、皆さんの考えと若い人たちの考えと色々接点を作って考えていきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

5. 協議事項（進行：議長）

それでは今日の議事に入りたいと思います。

まず一点目は地方創生の人口ビジョンとか総合戦略について事務局のほうから説明をお願いします。

(事務局)

失礼します、私船木のほうから説明させていただきたいと思います。

まず、資料の確認でございます・・・。

【以下資料に沿って説明】

- 地方人口ビジョンの策定イメージ
- 人口の現状分析のイメージ
- 人口の将来展望のイメージ
- 都道府県と市町村の役割分担
- 策定プロセス
- 地方版総合戦略の構成
- 数値目標・重要業績評価指数（K P I）の設定
- 戦略の対象となる政策
- 総合計画との関係
- P D C A サイクルの確立
- 地方議会との関係

（議長）

ただ今の説明に関して何かご質問はありますでしょうか。

考え方を共通理解していこうということですが。またご質問があれば後でお願いします。

次は、湯梨浜町人口ビジョン、総合戦略、交付金についてをお願いします。

（事務局）

それでは、湯梨浜町人口ビジョン、総合戦略、交付金について説明をさせていただきます。

日本の人口は、2008年の約1億2,800万人をピークに人口が減少しています。湯梨浜町においてもその例外ではなく、2005年の17,525人をピークに増加していた人口も、減少に転じています。

人口減少問題は、地域によって状況や原因が異なりますが、その大きな要因は、出生数の減少です。さらに、これに加えて、本町を含む地方の人口減少は、東京など大都市圏への人口の流出も大きな要因となっています。

人口減少による消費や経済力の低下は、日本の経済社会に対して大きな重荷となり、一人ひとりの生活にも大きな影響を及ぼします。

こうしたことから、国では、人口減少に歯止めをかけ、2060年に1億人程度の人口を確保したい。まち・ひと・しごと創生は、人口減少の克服と、地方創生をあわせて行うことにより、将来にわたって活力ある社会を維持することを目指すものです。

次に「地方創生に求められること」ですが、本町の平成25年の合計特殊出生率は、「2.06」と県や全国平均より高い数字となっています。

特に、大都市圏の数値が低いこともあり、人口が大都市圏に集中すると、おのずと日本全体として人口減少が進む結果となります。

これを踏まえ、人口減少の克服と地方創生を進めていくことを基本的視点として取り組みます。

地方創生では、地方で「ひと」が増えることで、「しごと」を呼び、「しごと」が増えることで、「ひと」を呼び込むという好循環を生み出していく、そういう取り組みをしていきま

しょうということです。

こうしたことから湯梨浜町版の「人口ビジョン」と「総合戦略」を策定していくものです。15ページをご覧ください。これは、町の将来人口を推計したたたき台です。

2010年の国勢調査の人口は「17,029人」。2013年の県推計は「16,795人」です。

これらのデータを基に2040年の人口推計を3パターン示しております。

まず、国立社会保障・人口問題研究所は、過去2回の国勢調査のデータに基づき、合計特殊出生率や純移動率、生残率を5歳刻みにコーホート要因法という手法を用いて推計したもので、「12,962人」としています。

これに対して、暫定ではありますが、本町の推計では、合計特殊出生率を直近の3カ年平均値や、純移動率を直近5年間と逡減方法を今後10年かけて県外転出入移動率を約0.5倍にだんだん減っていき、その後は一定となるよう推計したものです。また、社会増減を、過去5年間の合計を2008年の数値で割り戻した度合いを採用し、「13,563人」といたしました。

その結果、国立社会保障・人口問題研究所の推計より、601人多いという推計をしております。国の推計との大きな差は、合計特殊出生率の基礎数値を、どの数値で採用したが大きな要因です。近年の本町の数値は県内でも高い数値を示しております。

次に16ページですが、総合戦略の全体像を示したものです。

左側に人口ビジョンと記載しています。

人の流れを変え、人口流出に歯止めをかけ、出生率向上を目指し、有効的な施策・事業を実施するなどし、2060年には国立社会保障・人口問題研究所の9,913人の推計値より人口を増やすことを目標とします。

このために、本年から平成31年度の5カ年に総合戦略を策定しようとするものです。

基本目標として4つのテーマを挙げております。

①は、雇用創出、②は、地方への人の流れをつくる、③は、子育て世代の対策、④は、いきいきと暮らせる地域づくりであります。

その右側に「重要業績評価指標(KPI)」という最終目標値を示すことにしております。今回の総合戦略の特徴として、KPIを定めて、それに向かって多様な施策を行い、その事業効果によって、KPIとの比較を毎年検証していくことになっています。

さらに、右側に記載しておりますのが、主な施策(案)として具体的な施策・事業を行っていくというのが、全体像であります。

このたび、皆様方にご意見としてお聞きしたいのが、一番右側に記載しております「施策」であります。

基本目標を達成するために、湯梨浜町ではこんなことをしたらいいのではないかと、ご意見をお聞かせいただければと思います。

次に17ページですが、スケジュールでございます。人口ビジョン、総合戦略を9月議会で報告したいと考えています。

次の18ページに掲載いたしておりますのが、本年度より始めております各種事業の一覧であります。

消費喚起・生活支援型につきましては、プレミア付き商品券発行事業などは、4月26日に完売いたしました事業です。

地方創生の先行型としては、グラウンド・ゴルフの国際化を促進する事業や、ウォーキングを推進する事業、観光関連施設へのW i e f iを整備する事業、I J Uターンを進める情報発信事業、空き家バンク登録物件の改修費用を助成する事業、若者夫婦・子育て世代の住宅新築や購入に対する助成事業、1歳未満児を家庭で保育している世帯への給付事業、ワークライフバランスのセミナーを実施する事業、町内企業の事業展開を応援する事業、ハワイ風アレンジした地元食材を活用した料理メニュー開発や提供を行うアロハカーニバル事業、農産物や加工品の新たな販路拡大を推進する事業、防災対策に取り組む支援事業、介護予防や健康づくり活動の指導・支援するリーダー養成事業、集会所等のバリアフリー改修への助成事業、子どもさんが3人以上いる世帯の第3子以降の保育料無料化として子育ての環境づくりを促進する事業であります。

引き続き資料としましては別で作っていますが、町民から寄せられた意見等というようなペーパーがございます。こちらのほう、3月、4月に行ったパブリックコメントと5月18日、19日、22日に行った町長と語る会で出た意見を掲載していますのでご紹介いたします。

【湯梨浜町版総合戦略「地方創生」提案書により寄せられた意見等】

(1) 教育支援拡充による湯梨浜町活性化プロジェクト

ハードや仕組みを作ってもそれを運営できる人材がいなければ無意味であり、それを運用できる人材が居て、始めてその効果が発揮されます。町の活性化には、ソフト面の強化という観点から、人材育成教育プロジェクトを行います。大学進学及び在学中の教育強化等、教育支援を通じて町の教育レベルを底上げし、考えられる人材、実行できる人材及び国際人を育成いたします。

また幼児期(言語取得年齢)英会話教育で魅力ある湯梨浜町を発信、子育て世代の定着、転入を促進いたします。大学進学率日本一の町を目指し、教育立町として全国へ町の取り組みを発信し、結果、転入者増加と全国から注目される湯梨浜町のイメージアップを促進し活性化を図ります。

(2) 人口増したい(雇用増)

◎会社移転ばかりではなく、何か産物を見つける(作る)

〈参考〉

- ・徳島県上勝町＝「葉っぱ」ビジネス
- ・長野県川上村＝レタス
- ・岐阜県ちこり村＝チョコリ生産

◎智頭町ではIターンの方が大麻栽培し、伴って数世帯の移住者有り。

◎湯梨浜町活躍の余地ある。

- ・海の海水浴場だけでなく、1年中利用できる事を（御来屋魚センターを参考に）
- ・泊で採れる「あかもく」地元の人も知らないし、食べてもいない。他県では出荷もしている。

◎ I ターン、U ターンの人達の知恵を借り、何かしら色々なルートを持っていますよ。

(3) 松茸菌床ブロック生産組合（月収 240 万円を目標とする）

フランチャイズによる松茸菌床ブロック生産

①松茸を栽培し販売した場合

松茸販売価格 14,000 円×5,000 床=70,000 千円

菌床仕入価格 3,500 円×5,000 床=17,500 千円

収入額 70,000 千円-17,500 千円=52,500 千円（年額）

②松茸菌床を農家等に販売した場合

菌床販売価格 5,000 円×5,000 床=25,000 千円

菌床仕入価格 3,500 円×5,000 床=17,500 千円

収入額 25,000 千円-17,500 千円=7,500 千円（年額）

※設備投資、維持費等は別に必要

(4) セメンティング

瓦、石、瓶を利用し崖等セメンティングする。

(5) 3Dプリンターを使った製品

3Dプリンターを使った製品プリンターを使い東郷池、ゆりりん、墓等を製作する。

(6) 太陽光発電との組み合わせ

太陽光発電で植物工場、乾燥機の電力をまかなう。

【H27. 5. 18 町長と語る会（中央公民館）】

(1) ・有機栽培の野菜をつくって、町内の旅館で使えないか。

- ・太陽光発電を利用した野菜栽培や、電気自動車の充電などができないか。
- ・スッポンの養殖の使用する水を温めるため、太陽光発電を利用できないか。
- ・りんごは無農薬栽培を行っているところもあるが、梨も無農薬栽培をしてみようか。

(2) ・買い物難民の問題がある。商品券を発行しても使うところ（店）がない。

【H27. 5. 19 町長と語る会（中央公民館泊分館）】

(1) ・出生率が県内で3番目に高いがなぜか？

(2) ・2歳の子どもがいるが、町の子育て支援には助かっている。独身の女性を転入させる

- ・女性の働ける場所、企業誘致をしたいが場所がなく難しい。

(3) ・農業施策に力を入れてほしい。特に田んぼの振興。現在あるものを活かすことが大事だと思う。

(委員)

ちょっとよろしいでしょうか。ちょっと私所業がありまして、失礼させていただきますが、さきほどの施策の説明で補足させていただきます。当たり前の門切り型の施策ですが、面白

味がなんともないんですね。ところが地方創生の先行型でうちがやっていた事業を照らし合わせて考えてみますと、やっぱり町の独自性だとか特徴だとか想いですとかそういったものが入り込んだ施策になってくるとあそこに書いてある標題の中身が生きてくる充実したものになってくると、というような考え方で捉えていただけたらと思います。

あそこのところはどこでも通用する当たり前のことだけが書いてありましたから、そういうことでございます。

それからひとつ成功的な施策の中で面白かったと思うのが、家庭子育て支援事業をこの6月から実施しますがどうなるか、期待しているところなんですけども、若者が定住するための住宅について建設や購入支援ですねこれが50万円町が支援するとやったんですが、4月と5月で11件の応募があったということでこのことはとても嬉しいお話だったなというふうに思っております。当初予算が無くなりますけども、補正して引き続きつけていこうという気持ちで執行部としては思っている所でございます。

あと小さいことですが、町長との意見交換会のやり取りを初めて今見るところですが、合計特殊出生率が県下で高い方なのは何故かというのに、子育て支援施策の成果だとは言いたいけれども、そうは言えんと言ってます。15～49歳の女性が多いからということはないと思います。それは元々対象とされるのが15～49歳の調査ですからそれは間違いだと思います。

そのような想いで佐伯委員の話でもありましたけれども、明るい気持ちでやっていくということはある意味強みは伸ばして弱みは克服しながらも、やっぱり夢は描いて想いは実現させていくことがこの創生の肝にならないと思っておるところです。どうぞ委員の皆様よろしくをお願いします。

(議長)

今日はとりあえず事務局が用意した資料をお聞きして、ほんとの議論は次回以降になろうかと思えますけども。もうしばらくお聞きください。

(事務局)

時間も押してしまいますので、簡略しながら進めさせていただきます。

(4)・高齢の未婚の男女が多い。対策をしてほしい。

【H27.5.22 町長と語る会 (ハワイアロハホール)】

(1)・町には歴史的なものも数多くある。景観を守る事業に取り組んでほしい。日本遺産への登録など。

・点在しているものを「面」としてとらえていくこともできると思う。

(2)・町民の声をよく聞いてほしい。倉吉市はサークルにも職員が顔を出し、聞き取りしていた。

(3)・10月までにプランを策定するということがだが時間がない。行政主導型で各課が主になって町民の意見を集約する方法はどうか。また、アンケートを実施してはどうか。

(4)・子育て世代にも出てもらい意見を言ってほしいが、皆さんなかなか出る時間がない。

役場からPTAの会などに出かけて行って意見を聞いてほしい。

- ・若い人が実家に戻ってくるような施策を行ってほしい。

以上です。

(議長)

今のところで何かご意見はありますか。

(委員)

この会の役割の基本的なところの認識ですけど、これから町のほうが湯梨浜町の総合戦略を策定していかれるわけですけども、その過程で色々知恵を求められたり要望その他出るでしょうけども、そういうものを戦略の中に反映されるで、また事務局のほう以案を作られてですね、それについて意見を求められたりそういうものをこの会議は担当するという事でよろしいでしょうか。

設置要綱を見た所ですね、第1条に必要な事項を調査審議すると書いてありますけども、わかりやすく言えばそういうことでしょうかね。

この会の役割というかそのところを明確にしといたほうがいいと思います。なんとんく分かったような分かってないような感じがするんで、われわれが策定するのかな。

(事務局)

基本的には案を提出させていただきますけれども、今回の特徴で、PDCAというものの順次毎年していきましようということで、目標的には9月、10月に第1弾の総合戦略というものを策定していきますが、その後、だいたい2月、3月のあたり、年度末のあたりに本年度のKPIはどうであったかという検証と、当然次年度もお願いしたいと、検証の会議もこの会議でお願いしたいなというのがもう一つと、それから、各種いろんな分野からご出席いただいておりますので、色々な知識なりデータなりそういったお手伝いの方もあわせてお願いできたらなというところでございます

(議長)

いろんな意見をを出していただいて、それを吸収しながら案を作られて、その案に対して我々が意見を出して一つの計画ができると、出来たものをチェックする機関でもあるし、簡単に言えばそういうことでしょうか。

(事務局)

はい、そういうことです。

(議長)

ということで、他になにかご質問はありますか。

(委員)

今に関連してなんですけど、提案書はこんなことしたいというようなことを委員さんからあげてもらおうといくこともされるということですか。

(事務局)

今回お手元のほうに、こういった一枚紙(提案書)をおかしていただいております。

本日第1回目ですので、直ぐにご意見というのものなかなか出にくいということもございま

して、各委員さん方のほうにもこういったことがあればとという提案もいただければ、次回の会合のほうにこちらのほうもご提示させていただいて、沢山のご意見をいただいたうえでご紹介して検討していただければということでありまして、ここに提出期限ということできましたら、来月の12日のあたりまでにご提案いただければその後集約させていただきます、会の前に再度送らせていただきまして、色んな方のご意見も確認していただければというところでございます。

(議長)

提案書は出していなかったんだけど、会議の時にこういった考えがあるよというのもOKですよ、ということでもいいですね。

(事務局)

はい、そうです。

(議長)

ほかいかがでしょうか。

(事務局)

16ページの中にですね、人口減少問題の克服ということで2060年に社会保障人口問題研究所の数値があがっているわけですが、この数値よりも上回るとなっているんですけども、元々町の推計の方があがってますのでそのへんは又次回までにどちらに持っていかとということの確認したいと思います。

既に町の人口推計が上回っているという推計になってますので。これでいくと後々の問題が出るのではと思っています。その辺は中のほうで検討して調整できるところは調整したいと思います。

(議長)

ほかはいかがでしょうか。

今後の日程を教えてください。この会自体の。

(事務局)

それでは17ページのほうをご覧くださいと思います。

先ほど若干説明はさせていただきましたが、これの2番目ですね、総合戦略の策定という欄でございます。真ん中のあたりに総合戦略会議開催ということで、5月の中旬あたりから3月末まで矢印を引っ張ってございます。本日5月27日に1回目ということで、できましたら来月の下旬あたりに第2回目を開催させていただければと、その頃までにいろんな団体から意見を聞いてくださいと町民からのご要望もありましたので、町としましても6月のあたりにいろんな団体とか町がもっているいろんな会合がございますので、その中でもいろんなご意見を聞きながら一つの方向性をお示しさせていただければと思います。

その後、7月、8月頃パブリックコメントを頂戴いたしまして、8月の終わりくらいにはもう一度戦略会議を開催させていただいて、その結果を踏まえまして、議会のほうに、協議という格好で報告をさせていただければと、議会でもいろんなご意見が出るかもしれませんので、それを踏まえまして、何もなければ本年度版の総合戦略の策定という格好でもって

きたいと思いますし、議会のほうで修正とかです。何かありましたらまた皆様のほうにご報告・協議という格好でもっていきたいと思います。

それで2月、3月のあたりに最後27年度版のPDCAのチェックというところで進捗の確認をKPIの確認をしていただければと思っております。

総合戦略は見直しということが必要になっていますので、計画している内容が別な方向でもいいですよというご意見がございましたら、そこでも加えながら28年度以降に向けて協議ができたかなということがございます。

(議長)

繰り返しになりますが、今日は内容の共通理解をしたということで、先ほどありましたようにこれから皆さんから意見をいただきたいということ、第1段階は提案書のようなもので6月12日までに提案があれば出してくださいと。

必ずしも提出されなくても6月末の会議の時に、提案とか意見とかをまとめた一覧を作るし、その時に皆さんの意見を聞いて一つの形を作っていこうということをやっていくということですね。

そういう全部をまとめたものを8月末に一つ体系立ったものにしておきたいという、そういう作業ですね。

これから6月12日を第1段階、6月末を第2段階としながらどんどん意見を出してもらったら、こういう意識でいいですか。

(事務局)

はい。

(議長)

皆さんよろしいですか。8月末にはまとまったものができるということですが。

事務局何かありますか。

(事務局)

第2回目の会合の日にちを決めたいと思いますが、6月29日～7月3日の間でお願いしたいと思います。

※日程調整の結果、7月3日(金) 13:30～に決定。

(議長)

他にないようでしたら、以上で会議を終了したいと思います。お疲れ様でした。